

第5回吹田貨物ターミナル駅調整会議

1. 日 時：平成26年5月12日（月） 9：55～10：20
2. 場 所：JR貨物 吹田貨物ターミナル駅 3階会議室
3. 出席者：別紙出席者名簿参照
4. 議事内容

（1）吹田貨物ターミナル駅25年度貨物取扱量について

JR貨物が資料に基づき説明しました。

- ・吹田貨物ターミナル駅の貨物取扱量は57万トンであり、協定の遵守事項である年間100万トン以内となっています。
- ・吹田貨物ターミナル駅の中継コンテナは39万トンであり、協定の遵守事項である年間45万トン以内となっています。
- ・百済貨物ターミナル駅は大きく取扱量を伸ばしましたが、既存の荷物の増加もあるので梅田からの移転分散量については吹田と百済へほぼ均等に分散となっています。
- ・吹田貨物ターミナル駅の開業は平成25年3月16日なので、平成24年度の取扱量もわずかながら計上されています。

（2）吹田専用道路の交通量について

JR貨物が資料に基づき説明しました。

- ・3月には1日最大通行台数は過去最高の860台を記録しましたが、協定に定めてあります1日1,000台以内とすることは遵守しています。
- ・3月と4月は700台を超えた日が合わせて10日ほどありました。
- ・毎年12月と3月は貨物取扱量が増加しますが、今年の3月は増税前の駆け込み需要もあり特に台数が増えたと思われます。

<質疑応答>

Q：平成26年度は25年度よりも増えますか。

A：通行台数は取扱量と連動します。会社としては協定を遵守したうえで平成26年度以降も吹田貨物ターミナル駅の取扱量を増やしていきたいと考えています。

(3) 環境影響評価事後監視結果の速報について

鉄道・運輸機構が資料に基づき説明しました。

- ・二酸化窒素については四季いずれも予測値を下回っています。
- ・浮遊粒子状物質については夏季のみ予測値を超えましたが、四季の平均では両地点とも0.024となり予測値を下回っています。
- ・騒音についてはNo. 13地点の春季のみ予測値を超えましたが、四季の平均では58と予測値と同じになっています。その他の地点は四季全て予測値を下回っています。
- ・振動については四季いずれも予測値を下回っています。

<質疑応答>

Q：観測地点は学院大の方、岸部南には無いのですか。

A：No. 6地点が岸辺駅から少し南側、線路の東側にあります。本会議での報告は抜粋ですので資料には載っていませんが、年間の測定値にも問題はありませんでした。

また、年間の事後監視結果の調整会議での報告について機構より提案がありました。

- ・今後大阪府の観測データも合わせて報告書を作成し、6月に吹田・摂津の両市に報告させていただきます。前回会議では報告書を両市に正式に提出した後の7月に改めて調整会議を開くことになっていましたが、現時点で調査結果の年間の平均値も問題ありませんのでこの場を以て調整会議においては年間の報告に代えさせて頂きたいと思っています。

一同異議がなく、次回会議は26年度貨物取扱量の報告がある来年春の開催予定となりました。

(4) その他

(新型入換機関車の配置について)

JR貨物が資料に基づき説明しました。

- ・外見は従来の入換機関車と似ていますが、リチウムイオン蓄電池とディーゼル発電機を備えたハイブリッド機関車であり、走行時は電気で動いています。バッテリー低下時などはディーゼル発電機を起動することとなります。
- ・関東地区にはすでに配置されていますが、吹田地区には今年夏ごろの配置を予定しています。

以上